

PMR 資格試験への挑戦 4

日常業務の延長線上にあった PMR 資格試験

伊達 崇晃

■ 受験動機

受験動機は大きく 2 つあります。

1 つ目は、論述、ワークショップ、面談といったプロセスを通じて、「実践力」という観点から評価される PMR 資格試験は、自身のプロジェクトマネジメントスキルを客観的に見つめ直し、今後の成長につながる良い機会になると考えたためです。

2 つ目は、昨年より主査という立場になり、より高いマネジメントスキルが求められるようになったことから、PMR 資格試験の学習を通じて、自身のプロジェクトマネジメントスキルを改めて磨きたいと考えたためです。

■ 受験の感想

経験したことのない業種・種類のプロジェクトや、さまざまなシチュエーションを想定した問題が多く出題されましたが、私が受験を通じて感じたことは、試験で問われているのは深い知識そのものではなく、「自分であればどのように判断・行動するか」という点であるということでした。

そのため、日頃の業務において、自身であればどう考え、どのようにステークホルダーを巻き込みながら進めていくかを、意識してきた経験の引き出しがあれば、試験合格は十分に狙えるのではないかと感じました。

そういう意味では、特別な試験学習というよりは、これまでのプロジェクトマネジメントにおいて工夫してきた点や、問題に直面した際の思考プロセスを形式知化し、体系立てて説明できるよう整理しておくことが、試験対策として有効だと考えています。

また、個人的には試験対策を通じて P2M の考え方をを用いて自身のプロジェクトマネジメント経験を振り返ったことが良い経験となりましたし、一案件単位のプロジェクトマネジメントにとどまらず、複数案件を俯瞰したプログラムマネジメントにおいても活用できる視点が得られる試験内容でした。

■ PMR としての展望

PMR 資格試験に合格したことで、自身のプロジェクトマネジメントスキルをアップデートする機会となっただけではなく、試験を通じて第一線で活躍されているプロジェクトマネージャーの方々と意見交換を行うことで視野が大きく広がりました。

また、現在でも当時の受験メンバーと近況報告を続けており、日々良い刺激を受けています。

今後は、自身のプロジェクトマネジメントスキルの向上にとどまらず、後進育成やノウハウの共有などを通じて、社内外を問わずプロジェクトマネジメントスキルの実践力向上に貢献できるよう、活躍の幅を広げていきたいと考えています。



【プロフィール】 伊達 崇晃(だて たかあき)

NTT 西日本 主査

入社以来、民間企業、自治体向けの大型システム構築業務において、プロジェクトリーダーとしてプロジェクトマネジメントに携わってきた。

PMP、PMS を保有しており、社内の高度スキル認定制度において、プロジェクトマネジメントスキルの高度認定を受けている。